

再刊
水地誌要畧

大槻修三編

五

卷五
中國
山陰道
山陽道

291.
0934n
II

日本地誌要略卷之五

中國

大槻修一 編

中國ハ山陰山陽ノ兩道ヲ泛稱ス蓋轉訛ナリ丹波丹後
 但馬因幡伯耆出雲石見隱岐ノ七國一島ヲ山陰道ニ
 シ播磨美作備前備中備後安藝周防長門ノ八國ニ山陽
 道トナス東ハ畿内及東北陸ニ道ニ接シテ西ニ赴ク
 百五十里左右皆海ナリ其端南ニ向ヒテ西海道ト海峽
 ニ夾ム大山脈ノ東北ヨリ來ル者其中央ニ亘リテ西端
 ニ盡ク即全國ノ脊線ナル連岳ニシテ其陰陽ニ依リテ



348418

海水相通スレバ、湖口亦舟泊ノ地ニ堪ヘズ、大浦僅ニ港
灣ノ用ニ供ス可シ、温泉津ハ、浴場ナレヲ以テ、頗繁盛ノ
街市ナリ、且銀山ト相距ルニ里計、其山ハ、矢瀧城山ニ連
ノ、礦場ノ輸出ハ、皆此港内ニ送致スト云フ、

隠岐ハ、周吉隠地ニ郡ヲ北ノ大島トシ、海士郡ヲ中央
ノ一島トシ、知夫郡ヲ西南ノ兩島トナス、總テ四郡、

一國四島ニシテ、出雲ノ海上、十四里ニアリ、南ノ三島ハ、
知夫里島、周回六里、西島二十里、中島十六里、總稱シテ、島
前ト云フ、北ノ一島頗大ナリ、沿岸三十里、是ヲ島後ト云
フ、前後相距ル四里、群島其間ニ並列シ、松島特ニ大ナリ、

沿回二里、其他ハ、大森音部二股屋上ノ諸島ニシテ、其東
海上ニ、小島ノ散布セル者ヲ、隠岐ノ小島ト呼ブ、
知夫里ハ、最南ノ島嶼ニシテ、南ニ向ヒテ、良港アリ、島ト
其名ヲ同クス、舟泊ノ由入、共ニ此港内ニ由ルヲ以テ、頗
輻湊ノ處ナリ、○西島ハ、知夫里ト赤灘瀬戸ヲ隔テ、峽間
最狭ク、島形兩地ニ分レテ、船越ノ地、峽相接、燒火山中
央ノ南端ニ峙テ、浦郷港ハ、地峽ノ西ニアリテ、亦南向
港泊ナリ、此島ハ、後醍醐帝行宮ノ舊趾アリ、今尚黒木御
所ト唱フ、而テ後島羽上皇ノ崩處ハ、中島ニアリテ、刈田
ヲ其墓地トナス、○中島ハ、飯加長前ノ兩岬、左右ニ突出

不知々井ノ港口モ、亦南ニ開キテ、大船ヲ繫ク可シ、
 大端寺大峯ハ、島後ノ大山ニシテ、又摩尼山ト云フ、横尾
 山其西ニ對立シ、全島皆山ナリ、其西南溪間ニ、壇鏡那知
 ノ兩瀑布アリ、下流直ニ海ニ入ル、沿岸大率若礁、斷崖ニ
 シテ、岬角四出シ、白鳥那久ノ諸岬、頗大ナリ、西郷岬最高
 ク南方ニ突起ス、港灣モ、亦西郷港ヲ第一トナス、故ニ隱
 岐港ノ稱アリ、灣口東南ニ向キ、出雲ノ美保關ニ至ル海
 程四十八里アリト云フ、港内ハ、沿岸一里東郷、西郷ノ兩
 邑、其岸ニ臨ミ、八尾川源ヲ、大峯ニ發シ、港内ニ注ク、其
 他ノ舟泊ハ、南岸ニ加茂、箕浦アリ、西岸ニ福浦アリ、抑此

國ハ、日本海中西邊ノ絶島ニシテ、其西北洋中ニ、松島竹
 島ノ兩島アリ、共ニ朝鮮地方ニ接近スレテ、亦居民統屬
 ナク、各方ノ人時ニ來リテ、海獵ノ場トナスト云フ、
 物産

但馬石見ノ銀礦、及伯耆出雲ノ銅鐵、是ヲ全道第一ノ産
 トナス、邑智刃金モ、亦良品ト稱ス、其他石炭、砥石ノ類ヨ
 リ、蠟、漆、果實、蜂蜜、蜜、藤、繩、葛、粉、等ハ、共ニ山多クシテ、平野ノ
 少キヲ證ス可シ、故ニ蠶、桑、珠ニ感ニテ、且山藷ヲ養フ、又
 茶、藍ノ産アリ、丹波烟草、丹後縮、伯州木綿石見紬、及米子
 總等、其最有名ナル物ニシテ、紙ハ出石ヲ多品トナス、而

ノ、撞浦ノ沿海ニ、平家蟹ト唱フル者アリ、甲ノ人面ノ如キ、紋様ヲ現ス、實ニ動物中ノ異産ト云フ可シ、而シテ長門ノ西北ニ外洋ヲ受ノルヲ以テ、見島海中、常ニ捕鯨ノ業ヲ成スト云フ、

改訂 日本地誌要略字引

大槻修二訂 王永田方正註解

自卷之一 至卷之六

改訂ノ本、八木篇中ノ誤得、キ、む字ヲ誤次ニ撰出シ之、傍註ヲ附シ註解ヲ施シ、業トイハドモ、此書ニ依ルテ、半ハ部ヲ需ムスニテ、能カラズ、仍、解スルノ趣、本タリ

書肆報白

日本地誌要略卷之五 奥